

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・スタッフは、地域密着型サービスの役割を理解し、基本理念の中に「地域と密着し家庭的な雰囲気の中でその人らしく暮らす」ことを掲げています。	○ 玄関とユニットのリビングに基本理念を掲げ、誰でも見えるように掲示し、スタッフも常に意識するようにしています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の小学校の季節行事に参加し、学校や児童館、保育園の慰問も多いです。 リンゴの収穫の時は子供たちがリンゴをホームに届に来てくれます。スタッフからの情報も取り入れ関わりを拡大しています。	○ 管理者とスタッフは理念をしっかり思いに留め、日々取り組んでいます。このことを継続していきたいです。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	納涼祭・敬老会・クリスマス会の大きな行事では、地域の慰問を取り入れています。特に納涼祭での高田獅子舞は家族のみならず近隣の方も見学に来て地域の行事となりつつあります。その様子を広報誌を通じて家族や地域へ知らせています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	新聞・廃品回収の協力、ペットボトルキャップ・プルタブの収集など、町内の子供会に協力しています。 回覧板を隣に回すのもスタッフ引率で入居者が行っています。 近所の小売店に入居者と買い物に行き、道路で合う人に挨拶や声を掛け合っています。 外部の人を受け入れる時は、利用者のプライバシーについて配慮してもらっています。また、ボランティアのしおりも作成しています。	○ 慰問のスタッフ、ボランティアスタッフに認知症についての理解を深めるための説明もしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	前年の評価を基に、取組みたい内容をすぐ計画に入れ、スタッフと共に話し合っています。	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>提案された内容は次回までに取組んだことを委員に伝えていきます。また、外部評価の結果を委員に公表し、改善策の取り組みを行っています。</p> <p>例) 家族会を開催して欲しい→5月 家族会の開催実施 →7月 新人職員の紹介 →3月より</p>	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>わからないことや相談したいところはすぐに、市町村担当者、地域包括支援センターなどに相談しています。</p> <p>市へホームのパンフレットや広報誌を配布しています。</p>	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者のみならず、ホーム内研修で研修を行い、職員にも理解を広めることに努めています。</p> <p>利用者で現在1名、成年後見制度を活用している方がおられます。</p>	
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修で学んだスタッフが内部研修を行い理解を広めることに努めています。</p> <p>報告をみると、日常に潜んでいる虐待に気づいたことの内容が多かったです。</p> <p>虐待を発見したときの報告の流れの取り組みも定めています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長と管理者、十分な説明を行い契約内容を確認しています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットの玄関に意見箱を設置や、こちらからも面会時には直接苦情などないか（「なにか困っていることないですか」など）尋ねるようにしています。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「お手紙」を送付し報告しています。金銭管理はレシートなどを張付けして報告、人事異動は広報誌にて報告しています。また、家族の来所時にも口頭で報告しています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会を設け意見を聞いています。契約時に苦情解決の窓口責任者を知らせ、市町村、社協にも通報できることを伝えています。意見箱も設置しています。	○ 意見箱は運営者が責任を持って取り扱っています。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な交流会を設けスタッフの話を聞いています。そのおかげで、給与面などの改善も行われてきました。また、設備や備品の購入などにも反映されています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっています。スタッフの急な休みには臨機応変に勤務変更をする体制があります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職による欠員の為の異動はありますが、ほとんどなじみのスタッフでケアしています。	○	離職を最小限に抑えるよう、管理面での努力をしていきたいです。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のみならず、内部研修を行い、短時間でも毎月勉強会を開催しています。 外部・内部の研修の年間計画も立てています。	○	全スタッフに段階に応じて参加できるようにすることを目標にしています。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修に参加し、同業者との交流を深めています。 スタッフは他のホームの行事に参加したり、相互評価を通じて他のホームとの行き来が出来ます。	○	スタッフが他のグループホームに行く機会をもっと増やしたいです。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数回、懇親会を設けスタッフ同士のコミュニケーションが取れるように努力しています。	○	日頃から何でも話が出来るとような人間関係を築いていきたいです。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に協力し奨励しています。	○	昇給や賞与に関して、勤務状況に反映させていけるようにします。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前であってもお茶を出し、じっくりと家族の心の悩みに耳を傾け、感情移入をしています。入所後、1カ月は特に不安・さびしさを感じる時期なので、まめに訪室・声掛けし、行動にも注意を払っています。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずしもホームで暮らすことが本人にとって最善でない場合もあります。その時は家族に他の支援方法についての情報を伝えています。地域包括センターへ相談することもあります。	○ ケアしているスタッフから情報を得て必要とする支援を見極めるよう努力したいです。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意思を確認し、必ず聞いてケアをするようにしています。他の入居者とも親しくなれるよう、席なども工夫しています。	○ 本人の気持ち、必要としているものなど家族に話しています。本人・家族・スタッフと三位一体で取り組んでいきたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から教えられることが多々あると感じています。また、一緒にテレビを観て笑ったり、おいしいものを食べ、舌鼓をうったりもしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の気持ちを代弁し、家族に伝えることのみならず、家族と共に支援するようコミュニケーションを取っています。	○	家族が尋ねてきたとき、一方的な立場でなく寄り添いながら共に悩みを共有し、より良い方法を見出していきたいです。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	まめに状況を説明したり、良い点をお話することにより、家族の方に安心感が見られています。嫁と姑のようなデリケートな関係も気持ちを理解し接しています。	○	プライバシーを侵害せず、相手から話してくるような、温かい関係を家族と築いていきたいです。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会には特に制限を設けず、利用者の意に沿った支援をしています。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個性があり時にはぶつかる時もありますが、そんな時は穏やかに暮らせるような支援を心がけています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も安否を気遣い電話する時もあります。また、退所後も定期的に訪問してくれる家族もあります。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の意見に耳を傾け一人ひとりに合ったケアを心がけています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・好みの色・食べ物など、日常の会話の中で把握し、スタッフ全体が情報の共有に努めています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活パターンに加え、体調の変化、精神面の変化に気付くよう努めています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の視点で介護計画を作成しています。本人の願いの実現の為、支援できるケア内容となっています。 家族・スタッフ・主治医の意見を取り入れ計画を作成しています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本3カ月で見直していますが、入所後・退院直後または、変化のあった時は1カ月で見直しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日の出勤スタッフ全員が記録し介護計画の見直しに活かしています。 申し送り、連絡帳で情報の共有化を図っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、多機能性はないので、今後さまざまな事業を取り入れていきたいと思っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の集いに参加したり、学校行事に参加したりしています。地域のボランティアも定期的に訪問してくれています。	○	地域の交番との交流も持ちたいです。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者・家族からの相談、スタッフの情報を得て他の支援のサービスを利用することを支援しています。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に毎回参加して頂き、その都度、意見や助言をもらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医を決定しています。本人・家族が往診の契約を結んでいる人もいます。	○	夜間も医療連携体制が整っています。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科の医師がかかりつけ医となり、精神・身体の両面から診てもらい、また、相談できています。専門病院に受診することもできます。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が勤務しており相談出来ています。他に往診の看護師・訪問看護ステーションと24時間、相談できる体制をとっています。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医と入院後も連絡・調整を図り、利用者にとって最善の方法を話し合っています。早期退院に向け情報を提供しています。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重要事項説明書で説明しています。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについての研修に参加し、事業として「できること、できないこと」の指針を運営者と管理者の間で検討中です。	○	現在、緊急時は病院への搬送を希望している入居者がほとんどですが、今後ホームでの看取りを希望する家族とは話し合っていて決めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の移動に関しては情報提供しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報に関する承諾書を得て、写真・情報を取り扱っています。居室の表札も本人・家族の意向を尊重しています。ケース記録には、個人名で記載していません。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	必ず自由意思での確認を取っています。本人に決定を選択してもらっています。わかりやすい言葉で説明し、自分で決定したり意思表示をしてもらっています。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ生活してもらっています。食事時間も本人の食べたい時間に食べてもらっています。	○	基本的に食事の時間は決まっていますが、その日の気分に合わせて柔軟に対応しています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の行きたい理美容室に行ってます。また、出張サービスも3カ所から来ており、好みの店を利用してもらっています。	○	外出時や行事の時は、化粧をしておしゃれをして出掛けたりしてます。また、衣服も本人好みのものを着てもらってます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下準備などお願いしています。 箸、おしぼり、コップ、配膳なども一緒に行っています。 ホームの畑へ一緒に収穫に行ったり、栽培したりもしています。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲みたい飲み物を必ず聞いてから提供しています。 好きなおやつを個人購入して、好きなときに食してもらっています。 お酒は基本的には飲んではいませんが、お正月などの時は嗜む程度には飲んでいきます。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない方でもトイレに誘い排泄を促し、オムツを使用しないように努力しています。 排泄パターンを把握し、排便・排尿のタイミングを合わせるようにしています。	○	夜間は熟睡している時はムリに起こしたりはしていません。その為、失禁してしまうこともあります。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めています、時間帯は決めていないので、その日の入浴を嫌がる時は臨機応変に対応しています。 週2回は入浴あるいは清拭で清潔を保持しています。	○	寝る前に足浴を希望する利用者への対応も行っています。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に生活のペースは本人にまかせていきます。昼夜逆転しないように日中はある程度活動してもらおうようにしています。	○	眠れない夜は、温かい飲み物を提供したり、スタッフと談話したりしてすずす時もあります。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や生きがいを考慮し、自然に役割分担が出来ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が財布を持ち、金銭管理をして自由にお金を使っている方もいます。 家族の意向で、ホームで管理している方もいます。 基本的には予算の中で自由に使ってもらっています。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの行事としての外出だけでなく、個人単位で本人の希望するところに連れて行ったりもしています。 戸外の散歩も時々行っています。	○	個人単位の外出は他の利用者の嫉妬心を煽ることもありますので、その点は考慮して公平になるように行っています。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春から秋にかけて、月2回はバスで外出会を企画しています。 冬は外出の機会はどうしても減ってしまいます。	○	家族の参加も促していきたいです。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けたい時に自由に使ってもらっています。手紙も自由に書いて郵送出来るように支援しています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間・早朝を除き、訪問に関しては特に制限を設けてはいません。 来所時にはお茶を出しておもてなしをしています。 「また来て下さい」と常々声掛けもしています。	○	本人が家族に逢いたくても、家族が訪問しない場合に、こちらから本人の気持ちを知らせることもあります。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。もし生命に係わる危険がありやむを得ず行う場合は、説明して同意を得るための同意書を作成しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠していません。 外出したいそぶりを見せた時は一緒に外出しています。 やむを得ず施錠する場合は事前に家族への説明を行い同意を得てから行っています。 近隣の方や施設の協力も得ています。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともスタッフは利用者を見守り、様子を把握しています。 転倒のリスクの高い利用者には、ドアに鈴を付け、開閉したときにかすかにわかるようにしています。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管場所を決めて実行しています。 自己管理できるかどうか、定期的に話し合っています。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の想定される事故をケアプランに取り入れ、スタッフ同士で話し合いがされています。 事故・ヒヤリハットの報告書が整備されています。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほとんどのスタッフが救急救命講習を受講し、ホーム内でも急変時の内部研修を年1回は行っています。 緊急時対策マニュアルは見えるところに置いてあります。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会の時、町会長・民生委員・小学校校長に協力を働き掛けています。 緊急時の避難場所もあらかじめ統一して周知徹底を図っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生じるリスクについて前もって話しています。自由を束縛しないよう努めながらも、安全に注意を払っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインのみならず、顔色、睡眠状態にも注意を払っています。 異常のある時は、医療従事者に24時間体制で連絡をとれるようなシステムを取っています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報カードをケース簿に保存し、どんな薬なのか、わかるようにしています。 スタッフは薬の服用方法を理解しています。 臨時薬を服用した時は、反応についてケースに記録するようにしています。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れる食事提供をしています。また乳製品も取り入れています。 散歩をしたり、ホーム内での歩行も励行しています。 本人に合った下剤の種類と頻度もかかりつけ医と相談しながら服用しています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを全スタッフが理解し、実施しています。 自分で出来るところはしてもらっています。その際は見守りをしています。 介助が必要な方は、食後の度に行っております。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事の後、10時、15時、入浴前後など、水分摂取を確保できるよう支援しています。ケース記録にもチェックしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしています。 感染対策委員会も設置し、全スタッフが周知徹底できるように取り組んでいます。		毎年、インフルエンザ接種を利用者・スタッフ行っています。 手洗い・うがいを励行しています。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士の管理のもとに食中毒を予防する教育がなされています。 冷蔵庫も温度管理し、食材が新鮮に保てるよう努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	格子戸の日本家屋で、ごく普通の玄関です。 下足箱の上にはプリザーブフラワーが活けられていて、訪問者の目を喜ばせています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには棟方志功の大きな版画があり、落ち着いた雰囲気があります。大きな窓にはレースのカーテンがあり、眩しくないように工夫しています。 ウッドデッキで日向ぼっこもできます。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの他に様々なチェアが置かれ、自分の居場所を確保できるようになっています。 皆でテレビを観ている様子は家族を連想させます。	○	利用所の家族もリビングでくつろいでいる時もあります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	以前より使用していたものや崇拜の対象も持ち 込まれ、好きなように飾り付けしてもらっていま す。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室に温度計または湿度計を設置し、リビング ・廊下にも同様に設置しています。 管理者は毎日チェックし、必要な場合は加湿器 を使用しています。 換気扇のフィルターも定期的な清掃を行ってい ます。	○	居室に個人で加湿器も設置している利用者もい ます。 各居室の換気にも気を配っています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手摺りなどの使用やバリアフリー構造により、 ある程度は自立した生活を営んでもらっていま す。	○	玄関のたたきに段差があり、車イスの出入りに 不便です。他の入り口から移動できるように取り 組みたいです。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の入り口には、持ち込みで暖簾を下げ、自 分の部屋だとわかるように工夫されています。 各居室とトイレには表札を設置しています。	○	高度の見当識障害のある方はそれでも認識でき ない時があります。もっと工夫が必要なので、取 り組んでいきたいです。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホーム内はA・Bユニットも自由に行き来でき ます。 ホームの裏には畑があり、家庭菜園を楽しむこ とができます。 ベランダなどではプランターで花作りも楽しむ ことができます。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームを自分の我が家のように思えるように努力しています。利用者一人ひとりが愛され、必要とされていることを感じてもらえるよう、優しい介護を心がけています。それと同時に利用者の健康を守り、事故を防ぐために、プロ意識をしっかりと持ち、ホーム全体で介護力のスキルアップを図っています。

食事は利用者の好みを出来るだけ取り入れ、ホームスタッフが自ら食材を吟味し、利用者と共に収穫した無農薬野菜を用いて提供させてもらっています。